

子育てタウンミーティング(要約)

テーマ：子どもたちの笑顔が広がるまち

平成30年2月21日(水曜日)

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は平日の夜で、皆さんそれぞれお仕事がある中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日のタウンミーティングの開催にあたりましては、松山市小中学校PTA連合会会長をはじめ、役員の皆様のご協力をいただきました。ありがとうございます。このタウンミーティングは、私が市長に就任させていただいてから始めました。どちらが楽かという、皆さんがお越しになるのを市役所で待っていれば楽なのかもしれませんが、本当にそれでいいのでしょうか。松山市は、旧松山市・旧北条市・旧中島町を合わせて41地区に分かれますが、1期目は地区別のタウンミーティングを行いました。我々の方から各地区に行かせていただいて、皆さんのお声を聞かせていただき、魅力は伸ばす、課題は減らす、そして、できることからすぐに市政に反映していこうというタウンミーティングを始めました。市長の任期は1期4年、48カ月ですので、1カ月に1地区のペースで回らせていただこうと思っていましたが、おかげさまで好評になり、1期4年の間に41地区を二巡りさせていただきました。今、2期目に入らせていただきましたが、地区別タウンミーティングに加えて、世代別と職業別のタウンミーティングも行っています。世代別タウンミーティングでは、小さいお子さんをお持ちの子育て世代の方、シルバー世代の方、大学生や専門学校生にお集まりいただき、職業別タウンミーティングでは、農業に携わる方や商店街組合の方々とのタウンミーティングを重ねています。縦で切ったり横で切ったりしながら、いろんな分野で皆さんのお声を聞かせていただいているところです。いただいたご意見には、できる限りこの場でお答えしますが、国や県に関係する案件や、財政的に十分検討を要するものについては、いい加減な返事をして帰るわけにはいきませんから、一旦持ち帰り、検討した結果を1カ月を目途に参加された皆さんにお返事させていただいています。今日は皆さんのお声を聞かせていただいて、できるところから市政に反映していきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

【司会】 それでは、松山市の取り組みについて市長からご説明いたします。

【市長】 本日は107回目のタウンミーティングです。これまでのタウンミーティングでいただいた、子どもに関係するご意見への代表的な対応事例をご紹介します。まず、いくつかの地区のタウンミーティングで、「学校の教室にエアコンをつけてほしい」というご意見をいただきました。私たちが子どものころは最高気温が30度ぐらいだったと思いますが、今は35度や36度まで上がるようになりました。教室内の気温が高くなり、子どもたちがなかなか勉強に集中できないのではないかなと感じていましたので、小中学校のすべての普通教室と使用頻度の高い特別教室にエアコンを整備することに

しました。これは県内の他の市町に先駆けて行っている取り組みです。中には、「それは贅沢なんやないかな。暑いから夏休みがあって、寒いから冬休みがあるので、そこまでするのはどうかな」というご意見もありましたが、大きな災害が起こったときには、皆さんが小中学校に避難して来られます。真夏や真冬に大きな災害があるかもしれません。また、ご高齢の方や赤ちゃんも小中学校に避難することになります。学習環境の向上と避難場所という二つの意味から、小中学校へのエアコン整備を決断させていただきました。中学校は昨年（平成29年）9月から使用を開始しており、小学校は来年度中（平成30年度）の完成を予定しています。小学校55校、中学校29校の84校を地元の業者さんをお願いするかたちになり、当初は3年かかると言われていましたが、地元業者さんがチームを組んでくれて、小中学校合わせて2年でやってもらえるようになりました。また、これまでのタウンミーティングの中で、よくご意見をいただいたものの一つが、「通学路の安全対策」です。代表的な例ですが、味酒地区タウンミーティングで、「小学校正門前の歩道橋は、通勤通学ラッシュの自転車と交錯して大変危険なので、歩道橋を校内まで延ばしてほしい」というご意見をいただきました。JR松山駅前の道は県道で、愛媛県が管理している道です。歩道橋も県道にかかっているのが県の所有物でした。そこを愛媛県や警察とお話をしながら、歩道橋を延ばして直接味酒小学校の中に入って行くというかたちをつくり、松山方式といわれるようになりました。交通安全面ではとてもよくなりましたが、不審者が小学校に入ってくるようではいけません。なぜできたかという点、味酒小学校は、守衛さんといえますか見守ってくださる大人の方々がいらっしゃったんです。歩道橋に門扉をつくって、子どもたちが登下校する時間は門を開けて、他の時間は閉めるという工夫をしたので、このような整備ができました。また、通学路の安全対策について、もう1点ご紹介させていただきます。6年ほど前になりますが、平成24年4月に京都府で、小学校に登校中の児童と引率の保護者の列に自動車が入り込み、死傷者10人が出る事故がありました。松山市では、そのようなことがないようにできることをしようと、平成24年の夏休みに通学路緊急合同点検を行いました。点検は、国、県、市の職員だけでなく、先生、警察、地域の方、PTAの方々にもご協力いただきました。松山市全体で304カ所を危険箇所と判断し、平成29年12月末までに244カ所の対策を実施してきました。5年経ちましたので、今年度8月・11月・12月に、通学路合同点検を行いました。皆さんも松山市役所のホームページで見ていただけたらと思います。小学校の通学路の危険箇所及び対策が全部出ています。5年ぶりに総点検させていただきましたので、今年（平成30年）4月頃には、新たなものを公表させていただこうと思っています。毎月更新して皆さんに最新状況をお知らせする予定です。以上が、これまでのタウンミーティングでの代表例です。最後に、タウンミーティングでいつも申し上げていることがあります。まず、一つ目に「地域の皆さんができること」があります。二つ目に「行政がやるべきこと」があります。三つ目に「地域の皆さんと私たち行政が一緒になってできること」があります。やはり

この三つが大事ではないかと思えます。重ねて申し上げますが、本日は皆さんと有意義な意見交換をしたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

【女性】 今日はいろいろと意見を聞いていただけるようでありありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。子どもたちが公園で遊ぶときにボール遊びができないとか、自転車に乗れないとか、そういった規約のようなものが多いために遊べません。それに、県の体力テストで、ボールを投げる距離がかなり短かったと去年の結果で出ている状態なので、やはり小さい頃からボールなどを投げることができたらいいのかなと思っています。

【都市・交通計画課長】 都市・交通計画課長の石井です。公園の利用については、子どもが自転車の練習やボール遊びをしたいなど、いろんな相談があります。基本的には、地元の公園を管理して下さっている公園管理協力会と相談していただくことになるのですが、高齢者の方と時間分けをしたりする方法もあります。ボール遊びができる公園は、今、市内に12カ所できました。ボール遊びをすると他の小さな子どもが危ないとか、高齢者の方が危ないとかいろいろご意見がありますので、地元でルールをつかって使っていただくシステムになっています。どの公園でどのようなことがしたいかを私どもに言っていただければ、公園管理協力会にお伝えしたいと思えますので、よろしく願いいたします。

【市長】 私どもも思いは同じだと思えます。先ほど、都市・交通計画課長が申しましたように、ボール遊びができる公園を増やそうというのが、松山市の大きな方向性になっています。前の市長である中村時広市長の頃からボール遊びができる公園を増やしています。実際に公園の名前を挙げていきますと、平成18年度には平井町の平井公園、平成19年度には旧北条市の河野別府の文化の森の河野別府公園、平成20年度には中野町の中野公園、平成21年度には久万ノ台の久万ノ台緑地、平成22年度には堀江町の堀江中央公園、平成23年度には小坂5丁目の福音公園、平成24年度は白水台北公園、平成25年度は古川西2丁目の古川公園、平成26年度は愛光町の愛光公園、平成27年度は久米窪田町の北窪田公園と石風呂町のすみれの北公園、平成28年度は星岡3丁目の星が岡公園、そして平成29年度は二つの公園で地元調整中です。実は、私たちもできるだけボール遊びができる公園を増やしたいですが、やはりルールづくりができるかどうかなんです。松山市には、市長へ直接のメールが届く「わがまちメール」という制度がありますが、公園のそばに住んでいる中学生の女の子からメールがありました。その内容というのは、「私は公園のすぐ隣に住んでいます。公園で遊んでいるボールがうちの家に入ってくるんです。ボールが入ってくるだけじゃなくて、勝手にボールを取りにうちの家に入ってくるんです。何とかしてもらえませんか」というものでした。そういった公園のそばに住んでいる人の声もありますし、例えば、バットを振り回しているとか、サッカーボールがどんどん飛んでくるとなると、小さいお子さんがなかなか

遊びにくいということもあります。ですから、ルールづくりができるかどうかということだと思えます。私たちが子どもの頃は、まだ空き地がいっぱいあって、ボール遊びをしてもいいという感じでしたが、今はそうでもないです。松山市役所としてもボール遊びができる公園をできるだけ増やしていきたいなと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

【男性】 生石小学校の校舎から体育館へ移動する通路のことですが、そこは分離されていてその間に屋根がなく、移動するときに雨が降れば濡れている状態です。その区間が7メートル40センチぐらいあって、雨をしのぐ屋根がありません。場所は、途中に農道があって門と門で閉鎖して、一般の人は幅1メートル70センチぐらい通ることができる場所です。昨日、娘にも聞きましたら、やはり雨のときは走って通っていると。生石小学校は平成29年度938名で、松山市で一番在校生の多い学校です。この区間に屋根がありませんので、集会等があれば教職員を含め1,000人近くが雨に打たれながら歩いています。雨が降った後は、びしょびしょの状態なので当然滑ります。多くの保護者から、できれば屋根をつけてほしいとの意見があって、昨年、学校から行政に対して要望したようですが、何らかの理由で屋根を設置する運びにはならなかったと伺っています。もし、設置が不可能であれば理由を明確にさせていただいて、もし雨をしのぐ代替案があれば回答をいただけないかと思えます。梅雨も近いですから、それまでには困難かもしれませんが、未来のために、子どもを濡らさないためによりしくお願いします。

【市長】 私が生石小学校に学校行事で行ったときに、当時の校長先生からこの話を聞きました。現場も見ました。市の担当にできないのかという話をしましたら、農道の上にはどうしても屋根を設置することができないということでした。これは、校長先生から聞かれているので、「こういう理由でできないです」ということを、学校現場に回答を返すように言ったのを覚えています。今、お話があったように、子どもたちのお父さんやお母さんにもわかっていただくことが大事だと思いますので、改めて教育委員会からお話をいたします。

【生涯学習政策課長】 教育委員会事務局次長の家申と申します。大変ご不便をおかけしていることは認識してまいりまして、どうも申し訳ございません。今、市長も申し上げましたように、市長が卒業式に出席した際に、市長からも意見をいただきました。また、5月15日に校長先生からも要望書をいただいております、翌日の5月16日に校長先生にもご説明に伺っています。繰り返しになりますが、この部分が農道と水路で、建築基準法や松山市法定外公共物管理条例の縛りもあり、構造物が立てられない状況です。しかしながら、我々も問題意識を持っていますので、どうにかできないのかと研究をしているところで、関係部署ともども意識を持って考えていきたいと思っています。本当にご不便をおかけしていると認識していますが、もうしばらく研究させていただきたい

と思います。

【市長】 「もうできません、終わりです」ではなくて、「何ができるのか」という観点で考えてみたいと思います。

【男性】 昨年、豪雨があったときに水が溢れる場所がありました。子どもたちが毎日通学しているところの水路がどうしても溢れて、ものすごく水の流れが速いということで、平成24年に私が小学校のPTA会長をしていたときに、緊急で集まったときにも問題になった点でした。ただ、あれから6年経った今でも何も変わっていないと思っていたんですが、空港通りの歩道橋を今年新しくきれいにしていただけたということで、6年越しにやっと実りました。また、以前に子どもがけがをした歩道で、当時はトラックが多くて子どものためだけに歩道橋をつくることはできないという難しい案件があったんですが、それもこの6年以内に解決いただきまして、すごく感謝しています。どうしても、水の問題は危ないので、その上を塞ぐとか今後の対策があればということで今回は来させていただきました。また6年かかるかもしれませんが、今後の活動に期待したいと思います。

【都市・交通計画課長】 お話の箇所が、生石小学校の南側のところだとすると、平成20年から平成21年8月頃に、地元改良区がその水路の改善をしたいという話はあったようです。

【市長】 せっかくなので、場所を指さしてもらいましょうか。(スクリーンに地図を映す)

【男性】 水路のここが塞がっていて、一度子どもが中に入ってしまうと、次に出てくるのがもう海のほうです。水路に子どもが入ってしまうと助け出せないという問題点が6年前に出ました。

【都市・交通計画課長】 水路の改良は、地元の町内会や土地改良区から事業の要望書を出してもらわないといけないことになっていて、そのような話はありませんでしたが、要望書がまだ出されていない状況になっています。要望書が出されないと、市も工事ができないので、私どもに相談いただくと、要望書の出し方などを説明しますので、地元の総意としてやってほしいと思います。要望書を出していただいたら、危ないところから優先順位をつけて順番に工事をしていくことになっていますので、タウンミーティングの後で相談させていただいたらと思います。

【市長】 この前、生石農業祭に行かせていただいたので、私も場所はわかります。皆さんもお聞きになったことがあるかもしれませんが、水路に蓋をしてくれたらいいのというお声がありますが、水路を使っているのは大体農業をされている方が多いです。農業をされている方は、蓋をされると物が詰まった場合に掃除がしにくいと。また、水路から水を汲んで田んぼや畑に撒けるのに、蓋をしてしまうと難しくなってしまうので、水路を使っている方との調整が必要になります。今日は担当が来ていますので、後でお

話させてください。要望書を出していただいたら進んでいくのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。確かに子どもが水路に入ってしまった次に出てくるとしたらという怖い話ですので、皆さんと一緒に安全面を考えていければと思います。また、一般的な話として聞いていただいたらと思いますが、水路に蓋をすると道幅が広がって抜け道になってしまい、車が余計にスピードを出してしまうケースもあります。やはり子どもの安全や安心が大事ですから、落ちたりすることのないように、対応できればと思っています。

【生涯学習政策課長】 教育委員会から少し補足をさせていただきます。この場所かどうか定かではありませんが、大雨が降ると生石地区は道路が冠水して水路か道路かがわかりにくくて大変危険だということもあり、通学する児童が転落しないように、通学路の安全対策としてガードパイプを道路面と水路の境に設置した例もあります。そういった例もありますので、危険な場所だと思われるところがありましたら、随時ご相談をいただけたらと思います。

【男性】 児童クラブのことですが、放課後子ども教室との連携というか、文科省と厚労省のせめぎ合いという部分もあり、実際に建設場所の問題でなかなか施設が増やせません。あとはスタッフ不足で人を増やせない問題があります。実際に時給を上げてもなかなか集まりません。民間でも時給千円を超えていますが、そんな時給は出せません。そうするとなかなか人を増やせないんですが、施設の問題とスタッフの問題で解決策があれば、よろしくをお願いします。

【市長】 私は、2人子どもがいますが、1期目の選挙に出たときは、下の子どもが小学5年生でした。選挙になりますと遅くまでの活動になりますし、妻も活動を余儀なくされますので、子どもたち2人で夜も過ごさなければなりません。小学5年生をほったらかしにするのもなかなか難しく、児童クラブの必要性を特に感じています。松山市では、平成27年度に松山市児童クラブ人材バンクを立ち上げました。全戸配布の広報まつやまでも登録の募集を行い、また、市役所や22の支所にも募集案内を配って広く周知に努めているところですが、多くの児童クラブでは、依然として支援員が不足している状況です。この3年間で約220人増やすことはできていますが、まだまだかなと思っています。3月議会が始まったばかりでこれから議員さんたちに議案の審議をしていただくかたちになるんですが、今回児童クラブ関係で新たな予算をあげています。支援員の人件費などにあたる児童クラブ運営委員会への委託料を約1割引き上げて新規採用を図っていくことができるようにします。また、ずっと働いているけれどもお給料が上がらなかつたらモチベーションにも関わるとお思いますので、経験年数などに応じて支援員の賃金などの処遇改善を実施できるよう、運営委員会に委託料を加算する放課後児童支援員キャリアアップ手当を新しくつくり、継続して働いていただけるよう3月議会に提案しています。我々もできる限りバックアップ体制をとっていきたいと思っています。

います。

【保健福祉政策課長】 平成30年度の予算といたしましては、垣生小学校に児童クラブの新設も予定しています。まだ予算案が通っていませんので、通り次第、平成30年度の予算として執行する予定です。

【市長】 児童クラブですが、平成26年は64クラブで、入会児童数が3,536人でしたが、平成29年度は102クラブで、4,968人です。これは、38クラブ増やして約1,400人受け入れの数も増やしましたが、まだまだ足りていないところもありますので、そういう処遇改善をする議案を3月議会に提出しています。平成30年度に向けて、教育委員会や各学校の協力を得まして、放課後に比較的利用が少ない教室を使わせてもらえないかとか、長期休業中に利用できる教室を借りるなど、工夫してできる限りソフト面もハード面も保護者のニーズに応えられるように取り組んでいきたいと思っています。

【男性】 松山市だけのことではなく、愛媛県や日本全体のことだと思いますが、子どもたちの安全安心を守っていく中で、自転車のマナーがすごく悪いところが気になっています。横断歩道や歩道橋など、すごく便利なツールをたくさん整備していただいているありがたいところもありまして、歩道橋に関しては通学時には児童は必ずそこを歩きます。集団登校していますので、歩道橋を歩いて安全に通学しているんですけども、いざ家に帰って自転車に乗って遊びに出ると、まず通りません。たまに通っているのを見るなどと思ったら、自転車でそのまま上がって、乗ったまま降りて遊んでいます。なぜ通らないのかなと思いますと、我々大人もよくありませんが、大人がまず自転車で通りません。高校生もまず通らないです。子どもから離れますが、高齢者の方も上がるのが大変だと思います。だったら横断歩道をつけて、信号をつけてくれたらいいのにと単純に思ったりするんですけども、子どもが非常に危険な道路の横断をする。これは、国道、県道、市道、どこも一緒だと思いますが、我々の力だけでは指導しきれないところもあって、私たちと行政でどのようにしていったらいいのかを日々考えています。自分も通勤しているときに危険なところを見ますし、新空港通りとフライブルク通りの交差点は地下道になっていますが、高校生は地下道を通っていません。いつも車と接触しそうになるのを見ます。子どもを守るというところでいくと、私も高校生の子どもがいますので、自分の子どもには指導ができて、ほかの子どもに指導するわけにもいきませんので、どのようにしていくべきか、どのようなお考えがあるのかをお聞かせいただけたらと思います。

【市長】 これまでのタウンミーティングでも、子どもたちの自転車のマナーが悪いので市長さん何とかしてくださいというご意見が出たことがあります。例えば、皆さんも車を運転していて、中学生や高校生が四つ角などで安全を確かめずにピューッと自転車が出ることがありますよね。端っこを歩いてくれたらいいですが、膨れるようにして飛

び出してくるケースがありますよね。そういうことにならないように、「こども自転車免許証」という取り組みを始めました。このタウンミーティングがきっかけですけれども、考えの起点になったのは、警察のイベントで子どもたちが免許証をもらって、すごく楽しそうな表情をしていたことです。小学1年生から自転車によく乗り出すのではなくて、小学校3年生で一番自転車によく乗り出すんだそうです。まず、学科とといいますか、机の上で勉強して交通ルールを守っていくということになったら、青色のこども自転車免許証を発行して、運動場で実地を受けて交通ルールを守ってくれるとなったら、ゴールドのシールを貼ってゴールド免許証になるという仕組みをつくりました。その裏面には、守ってほしいルールを書いています。でも、それだけだと、しばらくすると捨てられてしまうので、代表的な例でいうと、こども自転車免許証を提示すると、プールのアクアレットとかの割引などが受けられるという仕組みになっています。そして、子どものときからルールを守ってもらおうと考えています。先ほど、南江戸の交差点の話がありましたが、高校生たちが全然地下道を通っていないのを見たことがあります。確かにそうだなと思いました。今、高校などでは、警察さんと連携しながら、スタントマンを使って車とぶつかる危ない場面を見てもらって、どれだけ交通安全が大事なのかを考えてもらっています。我々も、不幸な交通事故をなくしていくように、いろいろと取り組んでいるところです。

【都市・交通計画課長】 特に、高校生や大学生の自転車のマナーが悪いということを知り、市民の方からよく聞きます。自転車は、昔は歩道を通っていたんですけども、今は車道の左側を通行しなさいというルールがありますので、各学校に出向いて指導をしたり、大学祭のときに出向いて大学生にマナーのキャンペーンを行ったりしています。また、月に何回かは、朝の通学や通勤時に街頭指導をするなど、日々少しずつですけれども活動している状況です。それ以外にも、道路もできるところは自転車の専用道路をつくるほか、道路の左側を走ってくださいよという自転車ピクトなどのマークを国、県、市がタイアップしてできることからして、ハード面とソフト面の両方からマナーの向上、交通安全に努めるようにしています。もし、こんなことをしたらいいということがあれば、私どもに相談していただいたら考えたいと思います。また、お知恵をいただいたらと思っています。

【市長】 こじかクラブでしたかね、幼稚園や保育園のお母さんたちにも、交通安全を呼び掛けてもらうグループもあるんですよね。そういう会に行かせていただいたり、交通安全指導員さんの会にも行かせていただいたり、とにかくみんなが交通安全を呼び掛けているんですけども、なかなか守ってくれないのが現状です。歩道橋と横断歩道ですが、警察のほうで重ねてはなかなかつくれないこともありますよね。

【都市・交通計画課長】 一時前までは、横断歩道橋のあるところに横断歩道はつけないと警察は言っていました。三津の西署の前のフェニックス通りに、昔から横断歩道をつけてほしいと言われていて、横断歩道橋があるから無理だと言われていたんですが、

結局つくことになりました。なかなかハードルは高いと思いますが、可能性はゼロではないと思います。地元の総意などを含めて、こっちのほうがいいということがあれば、相談に乗ってくれる可能性もありますので、警察に申し伝えてみたいと思います。

【男性】 昨年の通学路の一斉点検のときに、学校の前に横断歩道がないので、非常に危険な状態になっていて、何とか設置できないか警察に問い合わせたときに、本当か嘘かわからないんですけども、ここに横断歩道の一つつけたら、ほかの横断歩道の一つ消さないといけないと言われたんです。そんな理屈が本当にあるのかなど。それが本当だったらしょうがないとも思うのですが、理由がよくわからないので詰めていただけたらと思います。

【都市・交通計画課長】 信号がついている交差点だと、渋滞が起こったりすることもあるので、横断歩道間隔が決まっていることもあります。間隔とか交通流動をみながら警察も話をしていたのだと思いますが、できるかできないかは市では判断できないので、市から申し伝えてみたいと思います。

【市長】 言っていただいたほうがいいですから、遠慮なく市に言ってください。国のことだったら松山河川国道事務所に伝えますし、県のことだったら県に伝えますし、警察も以前に比べると対応してくれるようになってきていると感じています。湯の山ニュータウンの下に、堀江から奥道後の下を通して小野のほうに抜けていく小野3号線が通ったんですけども、道が通って交通量が変化しました。子どもたちが湯の山ニュータウンから下りて、石手川沿いの道を通して自転車で行っていたんですが、小野3号線に向かう交通量が増えたものですから、湯の山ニュータウンのほうから石手寺のほうへなかなか曲がって行きづらくなったと。そこで、川沿いの子どもたちが自転車で通学していくところに、車が入っていくようになって危なくなったというのをタウンミーティングで聞いて、それを県と県警に話をし右折用の信号をつくってもらいました。また、湯の山ニュータウンの下は県道ですけども、雑草が伸びて自転車に乗った子どもたちが車道にはみでるように走っているという話をタウンミーティングで聞いて、即座に県も雑草について対応してくれましたので、どうぞ遠慮なく言っていただけたらと思います。

【女性】 スマホに関してかなり問題が挙がってしまっていて、松山市PTA連合会でも講師を招いて勉強会を行ったり、学校側の先生方にも集会を開いて指導していただいたり、学校のPTAではスマホに関するプリントとか使い方の注意とかいろいろ配るようになっているんですけども、やはり中学生がスマホを使う機会が多くなって、使い方のモラルがまだ全くできあがっていない状態で、それによって不登校に陥ってしまうというケースがだいぶ増えている気がします。学校保健委員会でも不登校になった人の対応をととても丁寧にしていただいていることも勉強させていただきましたが、そうなる前になんとか抑えることができないかなというのが、今の切実な思いです。先ほどの自転車の

講習会ではないですけれども、スマホを上手に使えるようになったらカードをくれるとか、そんなのがあったらすごくすてきなと思ったんですけれども、市ではどのようにスマホの問題について取り組んでいかれるのか教えていただけたらと思います。

【市長】 平成23年か24年ぐらいだったと思いますが、当時、小学生を対象にインターネットの安全教室のようなものをしていた際、ある方から小学生よりも中学生のほうが深刻ですよという話を聞いて、ガーディアンエンジェルスさんの力を借りて、中学生にもインターネット教室をするようにしたのを記憶しています。指導者への謝礼は市が負担する制度もありますので、ご紹介をさせていただいたらと思います。松山市では安全安心指導者学校派遣事業というものがあって、専門の講師を派遣してインターネット安全教室や情報モラル教室などを実施しています。インターネット安全教室は、教室で実際に体験できるシステムを利用して、インターネットを安全便利に、そして楽しく使用するためのルールやマナーについて詳しく説明をしています。情報モラル教室は、平成29年度から新たに始めたもので、SNSによるさまざまなトラブルでは被害者だけでなく加害者になる可能性もあるんだよということを学んでもらっています。毎年度、年度当初に市内の各小中学校に案内文を送っています。指導者への謝礼等は市で負担させていただきますので、受講については各学校で検討していただけたらと思います。

【学校教育課長】 学校教育課長の大本です。いつもいろいろなことでお世話になっております。いじめ問題につながるということで、PTA連合会の方々に非常にご協力いただいている「いじめ0ミーティング」でも、子どもたちへの啓発ということで、インターネットの使用についてクリアファイルをつくって配布しています。先ほどの市長の話にもありましたように、安全安心指導者学校派遣事業を活用している学校も増えていますので、連合会でもそういう面で特に力を入れていただいているお話も聞いていますので、協力して取り組んでいただけたらと思っています。なお、データ等を取りましたところ、約束ごとをつくっているご家庭が少しずつ増えてきているのかなと感じていますので、今後とも引き続きご支援いただけたらと思っています。

【生涯学習政策課長】 補足ですが、教育委員会と愛媛県警も非常に密に連携をしていて、市の生涯学習政策課から県警の少年課に職員を派遣しています。そこでの事業として情報モラル教室というものをしています。これも無料ですので、学校にご相談をいただけたらと思います。

【男性】 質問に入ります前に野志市長におかれましては、私ども松山市PTA連合会の活動に非常にご協力をいただいておりますことにお礼を申し上げます。平成28年、29年とキッズジョブまつやまでは、市長という職業を受け持っていて、非常に子どもたちに好評でした。この場を借りてお礼を申し上げます。私は、タウンミーティングは4回目の参加ですが、実は発言をするのは初めてで、この機会をいただいたことに感謝をしています。これはちょうど1カ月前に私の地元である小野地区タウンミーテ

イングで出た質問で、返ってくる答えは大体わかっていますが、今日はPTAの方にも本当に家計というか財布に直結することですので、改めて質問をさせていただきます。質問をする内容は子どもの医療費の負担軽減についてです。今の松山市の現状ですが、就学前までの子どもの医療費は無料です。中学校を卒業するまでは、入院費については無料です。あとプラス生活保護の家庭であるとか母子家庭は無料です。愛媛県下を見ますと、この4月以降、実は松山市以外は全て何らかの条件がついた中で子どもの医療費の負担軽減が行われていて、松山市は常にトップランナーであると思っていましたが、実はこの項目については最終ランナーになってしまいました。それにはいろいろな問題があって今にいたっているのは、私は理解をしていますが、今一度説明をしていただいで、これからの松山市の方針や取り組みの状況等を教えていただければと思います。

【市長】 現状をご説明させていただきます。医療費は、大きく通院費と入院費に分かれます。まず通院費は、0歳から小学校就学前まで無料です。入院は0歳から小学3年生まで無料であったものを、平成27年4月から中学3年生まで無料に拡大をしました。松山市内にはいろいろなご家庭があって、本当は子どもを入院させた方がいいんだけど、入院をさせてしまうと家計が苦しいなというご家庭もあって、入院は中学3年生まで無料になりました。また、ひとり親のご家庭については、平成27年7月からは母子家庭だけではなくて父子家庭でも通院・入院も無料になっています。他はどうなのかというと、中予地方は松山市・伊予市・東温市・久万高原町・松前町・砥部町で3市3町といういい方をしますが、他の2市3町は通院・入院とも0歳から中学3年生まで無料となっています。松山市となぜ違うのかというと、子どもの医療助成というのは愛媛県と松山市が共同で行っている事業で、0歳から小学校就学前までが県からの補助対象となっていますが、実は松山市と他の2市3町は補助率が違うんです。事業がスタートした昭和48年からは他の市町と同じように2分の1補助が出ていたんですが、平成18年からは4分の1になってしまいました。平成19年度からは、なお減って8分の1になったんです。なぜかということ、愛媛県からすると松山市は中核市で大きいので自分でやってくださいということで補助率が削減されました。これは前知事さんと前市長さんのときになりますけれども、あまりにも少ないですよ、戻してくださいよということで、平成21年度からは5分の1になりました。私と今の知事さんになってからになりますが、平成27年には5分の1のところ、4分の1に戻してもらえたけれども、他の2市3町は2分の1の補助をもらっているかたちになります。先ほど松山市は中核市ですからという話がありましたが、今、全国には20万人から70万人の人口を中核市といまして、全国に48市あります。この中でも2番目に低い補助率なんです。ですので、我々も補助率をもうちょっと回復していただけると、子どもの医療費助成がもう少しやすくなるので、愛媛県さんにももう少し還元してもらえませんかということ、毎年粘り強く要望をしているところです。他の2市3町がやっているんだからできないのと言われると、私も人間なので非常にづらいんですけど、こういう現状があるとい

うのと、今、財政をお預かりしていて、これからお金がいる案件が多々あります。給食調理場は大体昭和50年代に建設されていて、30年から40年経って更新の時期になっています。給食調理場は子どもたちが安全に食べられる食事を提供するので、例えばネズミが入るとかゴキブリが入ってはいけませんし、熱や水を使いますので、かなりちゃんとした施設をつくっておかないといけません。そういう昭和50年代につくった給食調理場は、これから更新の時期を迎えますが、例えば六つつくらないといけないところを統合するとか、コスト面や移動面のことも考えながらやっていこうと思っているんですけども、ここでもだいぶお金がかかります。JR松山駅も新しくしないといけませんから、こちらもお金がかかります。いざ地震が起こったときの災害対応のお金もある程度持つておかないといけませんから、なかなか物入りだなというところがあります。松山市の子育てについて、どんな状況にあるかをご説明させていただきたいと思いますが、決して松山市は全国の中で子育て環境が劣っているという訳ではありません。まず、365日24時間の小児救急医療体制ですが、県内の他市町ではやっていません。先ほど申し上げた全国48市の中核市の中でも、やっているところは少ないです。また、教育・福祉が一体となった子育て相談支援体制ですが、県内では松山市と伊予市だけです。中核市では他はありません。また、子ども関連施設へのAEDの手厚い設置ですけども、これも中核市の中ではやっているところは少ないです。もともとは各小学校や中学校に1台ずつAEDを置いていましたが、1台じゃ足りないですよ。管理の関係で職員室のそばに置いていることが多いですが、運動をしているときに調子が悪くなることがありますよね。持ち運びができるものがあればいいですし、また、プールのそばに置けたらいいですので、今は3台設置しています。こういうのも中核市の中ではやっているところは少ないです。あと、病児・病後児保育施設の拡充ですけども、これは全国48中核市の中でもいち早い実施で、周辺の2市3町をカバーしている状況です。地域子育て支援拠点の充実も、他市町ではあまりやっていないです。最後に保育定員ですが、保育所のニーズも高まっていて、保育所の整備にかなりお金をかけています。平成26年の保育所の定員が6,195人でしたが、今できるだけ保育所を増やして7,637人まで増やしてきました。1,500人ぐらい定員を増やしてきているのですが、保育所もすごく求められています。また、児童クラブも求められているという現状です。子ども医療費の助成ですが、思い切って松山市の単費で通院も入院も中学3年生までやるという選択肢もあると思うのですが、通院を中学3年生まで無料にすると1年間に7億円余計にかかるんです。少子化で働いて税金を納めてくれる人の数は減っていて、私もそうなりますけれども、高齢になって医療・介護・福祉などお世話になる方たちは増えてきています。また、国自体が1,050兆円の借金を抱えているので、これから地方に回ってくるお金が増えるとはとても思えません。そんなますます細る財布の中でやっていけないといけないので、1年間に余計に7億円いることになったら7億円削らないといけないんですよ。こういういい事業は、調子が悪くなったので3年でや

めますということはまずできません。10年やると70億かかるので、ちょっとこれは松山市としてはどうなのかなという思いがあって、各タウンミーティングに行っておっしゃっていただき、私も「わかりました。それやりましょう」と言えた方が楽ですけれども、それをやってしまうと後の世代に負担を残さないかなという思いで、ちょっとなかなか踏み切れないという現状です。県にも引き続き粘り強く補助率を上げてもらえるように要望をしていますけれども、現状がこういうところですよという説明をさせていただきました。

【男性】 丁寧な説明をありがとうございます。私が住んでいるのが小野ですので、東温市との境になりまして、歯医者とか病院に行ったときに思うのが、あるお母さんは会計をしないで帰り、私は会計をしないと帰れません。これが2市3町との違いだと思っているのですが、同じ県下なのに、住んでいるところで不公平を感じますので、全国市長会を通じて国への要望、そして今市長からもありましたが、県への補助率のアップをしていただきますようお願いいたします。平成29年度に中学校のエアコンを整備いただいて、平成30年度には小学校が終わるということですので、終わったぐらいにはやるぞという淡い期待をして質問を終わります。

【市長】 おっしゃったように確かに不公平なんですよ。ナショナルミニマムという言葉がありますが、どこに産まれたらどういう医療が受けられるというのではなくて、これは国として共通にやるべきことじゃないですかねというのを、国の人に全国市長会とか中核市市長会の立場で毎年要望をし続けて意見を申し上げます。私は市民の皆さんに対して怒ることはありませんからニコニコしていますが、これはおかしいですよということがあると、結構、中核市市長会とか全国市長会とかでは物言う市長ですので、これからもおかしいですよということを申し上げていきたいと思えます。また、ご理解ご了承くださいねと思います。よろしくお願いたします。

【男性】 職業体験についてですけれども、現在、三津浜中学校でも中学2年生が職場体験に行かせてもらっています。先生方から、事業所の受け入れが少しずつ厳しくなっているというお話もあります。私の子どもも国際ホテルさんに行かせていただいて、非常にいい経験をさせていただきました。可能性を広げるためにも、少し行政側からの声かけとか、投げかけをしていただけると選択肢が広がるのではないかと思いますので、依頼案件だと思えますが、よろしくお願いたします。

【学校教育課長】 学校教育課です。愛媛県が今年度開始しました「えひめジョブチャレンジU-15事業」は、簡単に申しますと、平成31年度から県下すべての中学校で、5日間の職場体験学習を行おうということで準備をしています。松山市でも現在、市の関係部局と商工会議所などに協力の依頼を進めているところで、各部署と協力して具体的な作業部会なども行って、受け入れていただける企業を少しでも学校にも情報提供できたらと準備を進めています。職場体験をしているところは、2日間の学校が多いです

が、5日間の受け入れが可能かどうかというところで、各学校でお話をさせていただいています。この両方の動きでお願いできたらと考えています。現在、各学校が行っている職場については、リストアップして情報をいただいていますので、そのあたりを少しずつ具体的に進めていけられたらと考えています。PTA連合会の方々もいろんな関係でご協力いただくことになるかと思いますが、その点はよろしくをお願いします。

【男性】 先ほどの自転車のマナーが悪いという話に戻りますが、私は二輪の指導員をしていて、免許センターでも原付を教えています。なぜ子どもたちの自転車のマナーが悪いのかを皆さんは考えたことがあるのかなと思います。私は、高校を卒業した自転車しか乗ったことがない子どもたちに原付を教えるんですが、今の高校生たちはブレーキを使うことが難しいです。小学生はなおさらブレーキをかけません。6年前、私が会長をやっていたときに、生石地区の空港通りは非常に自転車事故が多くて自転車禁止令が出ました。校長先生はすごく頭を悩ませていて、私にも相談がありました。私が自転車の教室を開いたんですが、今やられている自転車教室のレベルは正直言って申し訳ないですけど、やっつけ仕事のようになっていて、本質の安全を全く見ていないところがあります。子どもたちは段差を乗り越えることもできません。先ほど運動能力の低下の話がありましたが、ブレーキの使い方を教えない限りは、地下道に行くのもブレーキをかけられないので怖くて下りられず、そのまま真っすぐ進むという現象が起きているのではないかと感じています。自転車大会というのがあるんですが、松山市はそれを長らくやっていません。私が6年前に、松山南交通安全協会の方と直接話し合いをして行ったんですが、会長の任期は2年ほどで終わりなので事業は衰退してしまいました。南予ではすごく活発に行われていて、南予の受講生はものすごく自転車がうまいのでバイクもうまいです。松山市の人は本当に自転車が下手なので、バイクも非常に下手だと認識していますので、自転車教室がもう少し違うかたちで活発的になれば安全につながるのではないかなと思っています。

【都市・交通計画課長】 初めてそのような意見をいただきました。ありがとうございます。警察OBと交通安全協会の方に来ていただいて、交通安全教室と自転車教室をしていますが、どういことをするか専門家を呼んだ方がいいのかとか、ご意見を聞かせていただいて、うまく機能するようにしたいと思います。

【市長】 交通安全教室もより実効性を高めていきたいですね。教えていただいてありがとうございました。

【市長】 私から補足します。今日前半で、児童クラブの支援員の待遇改善についてお話をしましたが、小中学校のPTAの方々なので保育所や幼稚園は卒業したという方が多いかもしれませんが、今、保育士不足なんです。ハードを建てても、実際に働いてくれる人がいないと待機児童や入所待ち児童の改善にはなりませんので、新たにやろうと

している取り組みがあります。地域の状況に応じて既に設置している施設の認定こども園への移行を進めたり、地域型保育事業の新規認可をしたりすることによって、新たに449人分の保育定員を確保します。それと、ハードができないんだったらソフトで工夫してくださいよということで、定員を超えて1歳児や2歳児を受け入れてくれている施設に助成したり、入所予約制を新たに導入してもらうなどしたり、さらなる保育の充実を図っています。皆さんもご存知だと思いますが、国も待機児童、保育所や児童クラブが大事だと認識してくれて、平成27年4月から制度が変わったんですよ。児童クラブも小学1年生から3年生だったのが、6年生までが対象になりました。保育所は平成26年4月に待機児童の定義も変わりました。松山市は一度待機児童ゼロを達成しましたが、国の定義自体が変わってしまったので、待機児童が増えました。今、松山市は待機児童のもう一つ大きなくくりである入所待ち児童自体を減らしていこうと、より高い目標を持ってやっていこうということで、この4月に新たに449人分の定員を増やすとともに、ソフト面の工夫をしているところです。今、市役所の中で言っているのは、おじいちゃん、おばあちゃんは今の日本を、今の愛媛を、今の松山を築いてくれた人だから、人生の先輩方の施策もとても大事です。でも、子どもはすぐに大きくなります。子どもの対策が遅れば遅れるほど、子どもへの事業はやれないが増えてくるので、子どものことは特にスピード感が大事だよねということでやっています。その現れがこの数字ではあるんですけども、さまざまなものを見ながらやっているところです。気づかないところも多々ありますので、遠慮なく皆さんから言っていただくと、松山は南予と比べてブレーキをうまく使えない子がいる話も教えてもらったので、やはり現地現場の声はすごく大事だと思いますので、教えていただいた方がよいと思います。

【男性】 保護者の笑顔が子どもたちの笑顔に広がるかなと思ひまして、私から質問と要望があります。松山市から松山市小中学校PTA連合会に対して、あて職として各委員会の委員をお願いされますが、教育とあまり関係のない委員もあると思います。どのような選考基準でPTAに依頼されているのかご教授いただければと思います。次に、委員会の開催時間ですけれども、平日の日中に開催されることが多く、仕事を抜けたり休んだり、時間を調整して参加していて、かなり負担になっています。先ほどお伝えしましたように教育とあまり関係のない委員会や開催時間等、ぜひ見直しいただければと思いますので、ご検討よろしくをお願いします。

【市長】 まず、PTAの方々に参加していただくのは、大事な子宝とまさに接しているお父さんお母さんで、子育てをしている方の意見を反映する大事な存在ですので、委員として入っていただいています。今お話を聞いて想像したのが、お子さんが、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんに今日学校でこんなことがあったと話を聞いてほしいと思ひていても、「今日お父さんPTAの仕事があるけん行ってこうわい」となると話ができませんよね。ですので、できるだけ負担にならないように、私の方

から指示をしておきたいと思います。

【生涯学習政策課長】 平成29年度では、本市の審議会など52の会議に松山市小中学校PTA連合会から延べ70名の委員をご選出いただいています。大変貴重なご意見をいただいています。まさにおっしゃることは、切実なところであると認識していますが、市長も申しましたように大変貴重なご意見をいただけると思っています。また、審議会を構成する際に、女性の比率にも配慮して構成しているところもあり、大変無理を申しているのは重々承知していますが、ご理解いただけるとありがたいと思っています。

【市長】 大体行政がご意見を聞く方は、男性が中心だったんですね。今、全体として女性の比率を上げていきたいと思いますという大方針があります。PTAは女性の比率が高いですから、貴重な皆さんのご意見を反映したいという思いで、皆さんに頼りがちになっているところもあるのかもしれませんが。できるだけ負担のないようにしていきたいと思っています。

【市長】 予定の8時30分を回りました。さすがPTAの皆さんですので、次々と意見が出ましたし、仲がいいなあと思いながら拝見していました。最後に申し上げた通り、子宝です。人生の先輩方は頑張ってくれて、今の松山、今の愛媛、今の日本を築いてくれましたが、それに続くのが子どもたちです。高校を卒業して県外の大学に行く人もいますし、県外に働きに行く人もいますし、高校を卒業する18歳までに、松山のことが、ふるさとのことが好きだなと思ってもらうことが大事なんじゃないかなと思います。絶対に松山で過ごし続けてくださいとは言いません。もちろん県外の大学に行って、県外で働くこともあるでしょう。でも、やはり地元のことを好きでいてもらうことがすごく大事だなと思っていますので、そういう取り組みもしっかりしていきたいと思っています。よく言うことですが、「どうせ市に言うたって変わらへんわい」ではなくて、市民の皆さんの役に立つところで市役所じゃないといけないと思っていますので、言っていただいたら、それできますよということもあるでしょうし、それできないんですけど、こういう方法ならありますよ、他の市ではこういう方法で解決していますよとお伝えすることもできますので、とにかく敷居を低くしていきたいです。市民の皆さんと行政の距離ができるのはよくないことだと思っていますので、どうぞ遠慮なく言っていただいたらと思います。子どもたちの笑顔が広がるように、お父さん、お母さんやおじいちゃん、おばあちゃんの笑顔も広がるようにしていきたいと思っていますので、PTAの皆さんにはいろんなお願いごとをして、負担もおかけしているのではないかと思いますけれども、また引き続きご理解ご協力いただけますようお願い申し上げまして、終わりにあたってのご挨拶とさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。

—了—